

80.12.15

No. 607

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）三三三二・七

81.3決戦で日本階級闘争のあらたな

夜明けを

ジェット延長阻止・勤労千葉支援
12.7全国総決起集会での

中野書記長特別報告(上)

私たちは先月十一月二十六日から三日間、鹿島線潮来の地において、第四回定期大会を開催し、来年三月のジェット燃料貨車輸送延長阻止を最大の闘争として一三〇〇名組合員の総決起をもって、組織の命運をかけて、ストライキを含むあらゆる手段をもって、断固立ちあがることを決定しました。

今日の階級情勢のきわめて激甚な流動化と日帝鈴木体制の超反動攻勢のなかで、そして、なによりも日本労働運動が右傾化をつづけるなかにあつて、そうであるが故に私たちは一三〇〇名の少数の組合といえども、断固としてこの闘いに決起することを重大な決意をこめて決定しました。

三里塚闘争の勝利のために

81.3組織をあげてたたかう

なぜか？ 第一にわれわれは三里塚闘争を絶対に勝利させたいからであります。われわれはこの三里塚闘争が今日の日本階級闘争のなかでもっとも日帝国家権力と直接対峙する最大のたたかいとしてあることを重々承知しております。このたたかいは勝つことをとおして、ダイナミックな階級闘争の力関係を逆転しないかぎり、われわれの80年代階級闘争の勝利の展望はありえない、このように考えております。

でありますから、われわれは、昨年三月勤労『本部』革マル反動分子の敵対をはねのけ、組織をかけ、三里塚闘争と連帯する労働者の大義をかけ、組織の分離、独立をかつたわけであり

われわれは、来年、つまり81年が二期工事強行着工を中心として三里塚闘争にあって決戦の年となる、と判断しておりますし、その決戦の闘争に勝ちぬける道はわれわれが文字通り労働連帯のたたかひの真価を発揮し、来年三月のたたかひに断固決起すること、この三月闘争の勝利を何としても勝ちとること、このこと以外にないと確認したからであります。

われわれは来年三月、厳しいけれど、そして苦しいけれど、そして血を流すかもしれないけれど、わが勤労千葉一三〇〇名は断固として、この労働連帯の旗を高々とかけ、来年三月一日から、あるいはそのまえからになるかもしれませんが

が、ジェット燃料貨車輸送をストライキを中心とする

あらゆる戦術で阻止したいと考えております。

日本階級闘争の現状を大きく逆転する八一・三闘争

その第二は、われわれは今日の階級情勢、なかなしく労働運動の情勢にきわめて憂慮の念をもっており、敵が労働者人民にたいして数かぎりない不法不当の攻撃をかけてくるときに、全ての人がそれに対決して立ちあがらなければならぬのに、敵に迎合し、屈服し、そして権力に身をすりよせ、そして労働者階級の利益を売り渡している。こういう現状にあつて、われわれは何としてもこの状況を逆転させなければならぬ。

その最大のたたかひは来年三月にある。この三月のたたかひを、ジェット燃料輸送延長阻止のたたかひを、われわれはこの首都圏の一



中野書記長と共闘代表と共に決意表明に立つ中野書記長（中央）佐倉区支部長（左）成田市内支部書記長（右）

革マル反動分子をうち砕き、

日本労働運動の夜明けを

第三に、われわれは勤労本部を牛耳る革マル反動分子と「反対同盟と一線を画する」論などという反労働者的、三里塚敵対方針と対決して組織の決別をかけて決起したのであります。このような勤労千葉のジェット闘争に対し、そして反対同盟に対し、そして日本

面において、反対同盟と本日結集し、あるいは全国でわれわれのたたかひを見つめている多くの戦闘的同志仲間たちの支援をうけながら、断固としてこの闘いを爆発させること、このことを通して、われわれは右傾化する今日の労働運動、階級闘争の現状を大きく逆転させてゆきたい。

のあらゆる戦闘的階級的闘いに敵対する革マル反動分子をこの三月闘争の爆発をもって徹底的に粉砕してゆきたい。そして、動力車労働組合の、そして国鉄労働運動の、そして日本労働運動のあらたな夜明けを獲得してゆきたいと考えているからであります。（続く）